

自主推進目標値と今後の展開

新たなステップへ。さらなるチャレンジへ。

ゼロエミッションへの挑戦

自主推進目標値の中で最も困難な課題の一つが「ゼロエミッションの推進」です。ゼロエミッションを実現するには、発生した廃棄物を再資源化することはもとより、発生する廃棄物の絶対量を最小化するため、生産工程の見直しや製

品設計段階から廃棄物を発生させない工夫をするなど、源流からの対策を行うことが重要です。TDKでは2000年度から具体的な取り組みを行うため、技術部門の参画による推進体制を整備し、具体的な計画を立案中です。

省エネルギーの推進

1999年4月の改正省エネ法の施行を受け、TDKは工程ごとのエネルギー使用状況の把握をさらに進め、生産工程の効率化などの新たな省エネ施策を発掘し、自主推進目標

値実現のための具体的なシナリオづくりを開始しました。また、省エネ効果の大きいコジェネレーションの導入などを検討しています。

製品の非鉛化

部品メーカーにとって製品の非鉛化は技術戦略上最も重要な課題の一つです。TDKは1999年5月に全社組織として鉛フリー化プロジェクトを発足させました。鉛フリーは

んだへの対応や製品の鉛使用の削減を全社共通の技術課題として掲げて、取り組んでいきます。

TDKグループの自主推進目標値

(1999年10月改定)

推進課題	推進目標値
環境マネジメントシステム構築 (ISO14001に沿った環境マネジメントシステム構築を推進する)	<ul style="list-style-type: none">・1999年度までに海外工場の認証を取得する。・2001年度までに本社およびサービス子会社の認証を取得する。
環境配慮型製品の開発	<ul style="list-style-type: none">・製品アセスメントを1999年度までに海外拠点でも実施する。・環境配慮型製品の認定制度を1999年度までに導入する。
地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none">・単位売上高当りのエネルギー原単位(原油換算)を、2010年度までに1990年度比25%削減する。・PFC排出量を2010年度までに1995年度比で60%削減する。
ゼロエミッションの推進	<ul style="list-style-type: none">・事業所から排出される廃棄物を2005年度までにゼロとする。
環境負荷物質使用の低減	<ul style="list-style-type: none">・塩化メチレンを2000年度までに全廃する。・化学物質の排出量を2005年度までに1997年度比で20%削減する。・2001年度までにはんだの鉛フリー化対応を完了する。・製品への鉛使用を継続的に削減する。